

家庭用灯油機器の使用で心臓血管病死のリスク上昇

室内空気汚染は世界疾病負担で3位を占めるリスク因子であるが、心臓血管病による死亡との直接的な関係はよくわかっていない。本研究では、灯油、ディーゼル燃料、天然ガス、木材、牛糞の燃焼による室内空気汚染と心臓血管病による死亡との関係について検討した。

2004～2008年にかけて、イランの50,045例（40～75歳）を対象に家庭内燃料の使用について調べ、10年間追跡した。その結果、灯油またはディーゼル燃料を使っていた人では、ほかの燃料を使う人に比べ、全死亡リスクが6%、心臓関連死リスクが11%、虚血性心疾患リスクが14%高かった。ただし、今回の研究は燃料と心疾患および死亡との関連性を見出しただけで、因果関係を示すものではない。

したがって、灯油やディーゼル燃料による家庭での空気汚染の暴露量の増大が全死亡、心臓血管病による死亡リスクの上昇と関連することが明らかとなった。

出典：Circulation. 2016; 133(24): 2360-2369